

淺草御藏前に、永野七郎兵衛と云る名主、異名を釣鐘といは、是延寶天和の頃なり、がばかりなるれしが、此船頭、彌左衛門に鐘といふ異名をゆづりたりといぞ、是延寶天和の頃なり、がばかりなるを大きなること、したり、其他あまたの男立ども文身のこと聞えず、いとく希なるを知るべし、其後寶曆年間、浮世草子などに、入ぼくろする處をかけるもあり、また日雇とりなど肌ぬぎたる圖にほりもの有り、其文は一心といふ字、或は渦まき杯にて、手のこみたるはなし、肌も見えざる程、ことくしき繪をほるといふは、近時の事なり。

〔天保集成絲綸錄 八十一〕文化八末年八月

近來輕きもの共ほり物と唱總身江種々之繪又は文字等をほり、墨を入或は色入等にいたし候類有之由、右體之義は風俗にも拘り、殊に無疵之總身江疵附候は、銘々耻可申儀之處、若きものどもは却而伊達と心得候哉、諸人之陰に而あざけり笑ひ候をもは、からず、近頃は別而彫物いたし候もの多く相見、不宜事に候間、向後手足は勿論、總身江彫物いたす間敷候能々町役人共も爲申聞、心得違之儀無之様可申諭候、且又右ほり物いたし遣候もの共は、人々依頼候とは乍申、いみきらふべき事を不差構、好にえたがひ彫遣候は、別而不埒之事ニ付、此度吟味之上、夫々咎申付候間、是又自今相止候様、町役人共より能々可申聞候。

〔新撰字鏡 皮 鼓〕徂驪反、去、縮也、麻同字、比太、又志和、幸。

〔倭名類聚抄 肌 三 鼓〕唐韻云、鼓、七倫反、和名之和。皮細起也。

〔箋注倭名類聚抄 身 二 體〕玄應音義引字略云、鼓皮細起也、孫氏蓋依之。

〔伊呂波字類抄 人 體 鼓〕シ ヲ 理 シ ヲ

〔下學集 上 支 體 鼓〕シ ヲ

〔倭名類聚抄 鼻 三 口 縦理〕史記云、縦理、如字、縦理入、原在、縦字、上、今改、口、餓死之相也。

〔箋注倭名類聚抄 鼻 二 口 所引周勃世家文、原書縦理作有、從理三字、文選幽通賦注引與此同、漢書周

鼓

縦理